

くらし・き・になる

We live in the future of theirs.

未来ビジョン

2024（令和6）年3月 version

くらし・き・になる

エリアプラットフォーム

くらしきになるエリアプラットフォーム 未来ビジョン 目次

0. はじめに	---2
～倉敷市中心市街地の未来ビジョン策定にあたって～	
1. 未来ビジョン策定の目的・経緯・体制	---5
(1) 策定の目的	
(2) 策定までの経緯・検討体制	
2. 未来ビジョンの対象エリア	---10
3. 未来ビジョンの位置づけ	---11
4. 倉敷のこれまでと現在	---12
(1) データ分析	
(2) これまで描かれてきた倉敷のビジョン	
5. エリアの将来像	---27
(1) 基本的な理念	
(2) 3つの将来像	
(3) ユースの思い・未来へのメッセージ	
6. テーマごとの方針	---32
(1) 6つのテーマにおける問題・方針・取組み	
7. 将来像の実現へむけた取組み	---34
(1) 個別の取組みの集合と、集合知による新たな取組み	
(2) プロジェクトマップ	
8. 未来ビジョン実現に向けたロードマップ	---36
(1) 短期：2030年	
(2) 長期：2067年	
9. 未来ビジョン実現に向けた協働体制	---37
10. おわりに	---41

0. はじめに

～倉敷市中心市街地の未来ビジョン策定にあたって～

今回の倉敷市中心市街地の未来ビジョン策定にあたって、ビジョンの対象エリアを歴史的建造物群の保存地区（通称美観地区）に加えて倉敷川畔を中心に東西南北に伸びた街道沿いに町家が多く残る地域をビジョン策定エリアに選定しました。倉敷川畔は物流の拠点として倉庫群と大型町屋が建築されますが、街道沿いには多様な種類の町家が大小、職種に関わらず連担して建てられています。その町並みは多様な階層が混ざり合って、町衆を形成し地域コミュニティを形作っていました。この歴史的空間はヒューマンスケールの空間で暮らしを中心にした仕組みがあり、リーダーたちのパブリックマインドと地域への貢献、進取気鋭の志、住民たちの日常の丁寧な暮らしと文化、そして美しい町への意識が育てて来た歴史と価値が積み重なり、連続した歴史的都市環境が色濃く残る地域でもあります。

未来が見える倉敷の景観

-----ある冬の日、大原本邸の玄関から通り土間を抜けた蔵に通じる路地は雨が降っていた。決して広くない路地だが、雨が埃を落とし、濡れた石畳と寒の雨が降る路地は澄んだ空気に満ちていた。路地は 200 年以上佇まいが守られている。日々手入れされ、昔と変わることなく今日の雨を迎えている。この路地をかつて歩いた屋敷の住人と往来した人々と 200 年を超えてこの日も変わらない空間を共有している。この風景はこれから未来に向けても今までと同じ風景と風情を創り出すに違いない。此処は 200 年前からずっと未来を見せてくれている。倉敷の未来の風景なのだ。私たちは彼らが暮らした未来にいる、多くの先人たちの未来に暮らしているのだ。このような風景と環境が美観地区と周辺部には多く残っている。保存ではなくここは今と変わらず未来も美しく、新しい場所ではないかと先人たちは未来を思い描いていたかもしれない。-----

まちの歴史

吉備のくに、備中の高梁川の河口部に位置する倉敷は川と海の交わる豊かなめぐみの地。倉敷のまちは、高梁川の河口部の遠浅の海に浮かぶ島々の周辺が徐々に干潟化する中で、16 世紀半ばから新田開発の干拓が進み、物資の集積と船運のための河川が整備され発展していきます。倉敷のまちは城下町のように一定の空間を都市計画的に作り上げた町並みではなく、自然の地形に沿うように周囲に町並みが拡大していきます。

江戸期には幕府の直轄地として、備中・美作・讃岐・伊予の幕府領の物資集積・流通の中心地として商業的に発展し、倉敷川畔を中心に大型町屋、倉、家並みが形作られ、往還

路に沿って町並みが広がっていきました。明治に入り、倉敷紡績の設立と紡績産業関連施設に加え、イ草産業を中心に事業所、工場、倉庫群も建設され山陽鉄道倉敷駅の設置とともにさらにまちが広がり、商工業都市として発展していきます。大正期は行政の核が鶴形山の北に移り、さらにまちが周辺に拡大していく中で公共施設、銀行、倉敷中央病院などが近代和風、疑似洋風の新しい建築物として登場してきます。市民の住宅も長く培われた日本建築の伝統的な技術で建てられて昭和を迎えます。このような経緯の中で、倉敷の町並みを形成する倉・町家群はほぼ現在の中心市街地の範囲で建てられ、戦前の都市景観を形成しました。

江戸・明治期の建築物はその後の倉敷の伝統的建築物の建築意匠に大きな影響を与え、倉敷の都市形成は、時間の経過、経済、社会構造とともに作られましたが、幸い大きな災害に遭わなかったため、倉敷川畔から周辺部へと、都市構造と景観が時代の変遷とともにわかりやすい形で残っています。

どこにもあった町並みが全国でも稀な町並みに

戦火にあった大都市や地方の中心的都市の建築物と町並みは消失しました。戦後の復興はエネルギーの転換とともに産業開発と交通体系が変化し、全国で都市開発、住宅開発が進められます。激動的状況の変化は、20世紀前半までに形成された伝統的集落や町並みは破壊されるか、自ら変身する道を選ばなければなりません。多くの都市が戦中・戦後に目に見える歴史的資産を失って行く中で、戦火を逃れた倉敷市では戦後間もなく倉敷川畔の商家・町家・倉などが建ち並ぶ町並みの保存を進めました。その結果、全国でも稀な都市として、重要伝統的建造物群保存地区を核に歴史的都市景観を今に残すこととなります。

町並みの価値を市独自の条例でまもる。

戦前から町並みの価値を大切に考えていた倉敷では、昭和24年(1949)1月に国内では戦後の古民家再生の第一号ともいえる倉敷民藝館が開館します。同年有志により倉敷都市美協会が設立され、戦後の倉敷市中心部の歴史地区での建造物と町並み景観保存のきっかけをつくります。戦後倉敷を訪れた外国人たちが倉敷川畔の素朴で落ち着いた民家群の美しさと暮らしぶりを称賛し、国内外のマスコミ、雑誌も倉敷の町並みの美しさを伝えます。

昭和42年倉敷市は周辺2市(児島市・玉島市)と合併するにあたり、事前に「倉敷市の将来像に関する懇談会」を組織し、報告書で倉敷川畔の歴史的景観の保存と整備案が出されます。合併の翌年昭和43年(1968)に、倉敷市は全国に先駆けて市独自の条例として、「倉敷市伝統美観保存条例」を制定し、翌年「倉敷川畔特別美観地区」を指定します。その後昭和50年(1975)国は「伝統的建造物群保存地区」制度を創設し、昭和53年に「倉敷市伝統的建造物群保存地区保存条例」、さらに昭和54年(1979)に「重要伝統的建造物群保存地区」(13.5ha その後平成10年に15haに拡大、以降重伝建地区という)として

国の選定を受けます。平成 2 年（1990）には全国にさきがけ、背景保全条例を制定し、市は歴史的都市景観の整備を講じてきました。

地域を知り、学び、価値を高め、仕組みを作り、活かし、そして鍛える

伝統美観保存条例・重伝建地区選定などを経て 50 数年にわたり保存地区の歴史的都市景観整備を進め、条例規制と補助金で景観整備の効果は上がっています。一方周辺地区では開発圧力が増し、市の景観計画の制限が及ばない限度を超える高層マンションが建設され、プレハブや駐車場が増々目立つようになり、ライフスタイルも大きく変化し全国どこにもある都市環境に様変わりしています。残存している町家も解体が増え、景観は釣り合いが取れなくなり、重伝建地区との差異が増々顕著になり歴史的都市景観にモザイクが掛かる地域が増えています。

We live in the future of theirs. 「私たちは彼らの未来で暮らしている」。先人たちの未来は過去の積み重ねの今がまさに未来ではないでしょうか。そのような視点で改めて、まちの歴史を知り、まちの価値を学び、共有する事から未来ビジョンづくりが始まります。未来は今暮らしている私たちの未来でもありますが、ここで暮らしてきた先人たちの未来でもあります。そしてこれから生まれてくる人たちの未来でもあることを忘れずに。地域を知り、学び、価値を高め、仕組みを作り、活かし、そして鍛えるためにまちの未来ビジョンを作りたいと思います。

1. 未来ビジョン策定の目的・経緯・体制

(1) 策定の目的

倉敷市では、昭和42年(1967)の倉敷・児島・玉島の3市合併を契機とした「倉敷市の将来像に関する懇談会」において、倉敷川畔の歴史的景観の保存と整備について報告されたこと等を背景に、昭和43年(1968)に「倉敷市伝統美観保存条例」が制定され、その後50年以上に亘り町並み保存に取り組んできました。条例による規制や補助制度による支援等が整えられた倉敷美観地区では、50年先も変わらぬ風景と風情が残る、言い換えれば、未来の姿が既に見えている状態にあります。

一方、倉敷美観地区の周辺では歴史的建造物の解体・撤去が進み、歴史的なまちの姿にモザイクがかかる地域が増えてきました。住民や事業者等が思い描くまちの将来像は、地域との関わりや関心分野、立ち位置などにより一様ではなく、具体的な都市像のビジョンが示されなければ、成り行きが未来のまちへと繋がっていくことになります。

また、景観の保存は観光客の増加をもたらす経済活動の活性化を生み出した反面、住民の日常生活に様々な影響が出て、暮らし難さを感じることも多くなったことも否めません。地域の財産としての景観や個々の町家をまもり育て、そこでの暮らしを支えてきた地域住民が高齢化し、地域コミュニティの担い手としての居住者が減少していることにも目を向けていく必要があります。

そこで、「歴史的都市環境を継承しながら、この地域でどう暮らして(働いて)いきたいか」という想いを共有し、その実現に向けてそれぞれが当事者として行動できるように、未来ビジョンを策定することにしました。

【モザイクがかかるまちの姿】

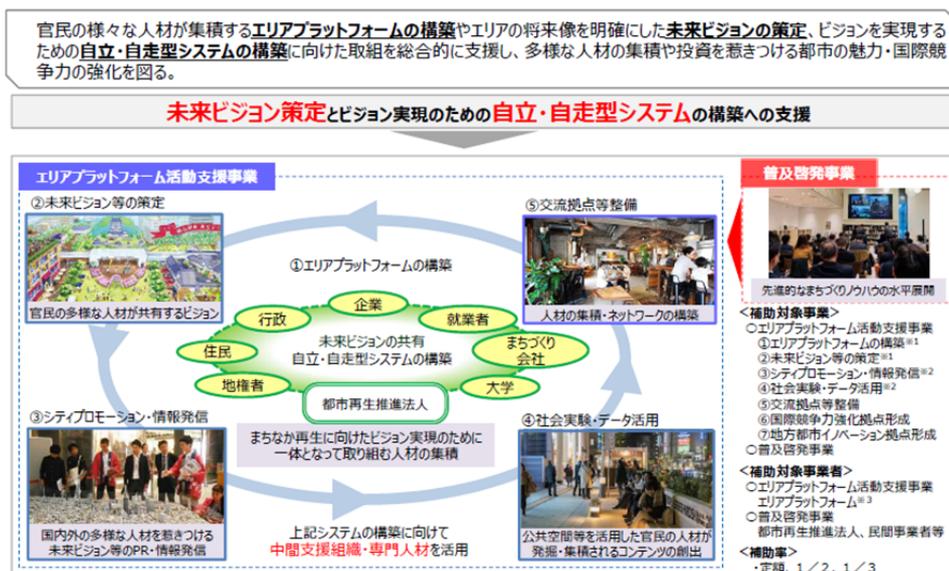


岡本直樹氏「倉敷鳥瞰絵図(2005)」を基にNPO法人倉敷町家トラストが作成

(2) 策定までの経緯・検討体制

住民や事業者等の思いが詰まった未来ビジョンをつくるためには、関係者が語り合えるオープンな場が必要と考え、国（国土交通省）の「官民連携まちなか再生推進事業」を活用することになりました。この事業は、官民の様々な人材が集積するエリアプラットフォームの構築や、エリアの将来像を明確にした未来ビジョンの策定、未来ビジョンを実現するための自立・自走型システムの構築に向けた取組を国が支援するものです。

【国土交通省「官民連携まちなか再生推進事業」概要】



出典：国土交通省「「官民連携まちなか再生推進事業」について」

令和4年(2022)度の事業採択が決定した後、地域住民や土地所有者等が「倉敷美観地区及び周辺地域未来ビジョン検討委員会（以下「検討委員会）」を設立し、未来ビジョン検討の主体となるエリアプラットフォーム構築に向けた取組を開始。倉敷美観地区とその周辺地域に関わりのある住民や事業者、金融機関、商店街、教育機関など様々な人・団体に声をかけ、参加者が未来のまちを語り合える場となる「くらし・き・になるミーティング」を令和4年(2022)11月に開催しました。

その後、3回のミーティング（うち1回は専門家を招いた講演会）やまち歩き、空き家の改修ワークショップ等を通じて新たな参加者を巻き込みながら、皆で地域の現状・課題を共有し、未来のあるべき姿や機能等の検討を深めていきました。

【ミーティングやまち歩きの様子】



令和5年(2023)度にも事業が採択され、検討委員会のメンバーや倉敷市、ミーティング参加者を構成員とする「くらしきになるエリアプラットフォーム」を令和5年(2022)6月に設立。未来ビジョン策定に向けた本格的な活動が始まりました。

【グラフィックレコーディング（設立総会）】



エリアプラットフォームは、所属や年代などの属性にとらわれず、誰もが気軽に参画できる組織を目指しているため、会員の条件を「対象エリアにおけるまちづくり、暮らし、商い、学び等に関心のある者」の一点とし、入会のハードルを低く設定しています。その結果、まちづくりの議論にこれまで参加することのなかった個人や学生など、多様な人材が少しずつ集まるようになりました。

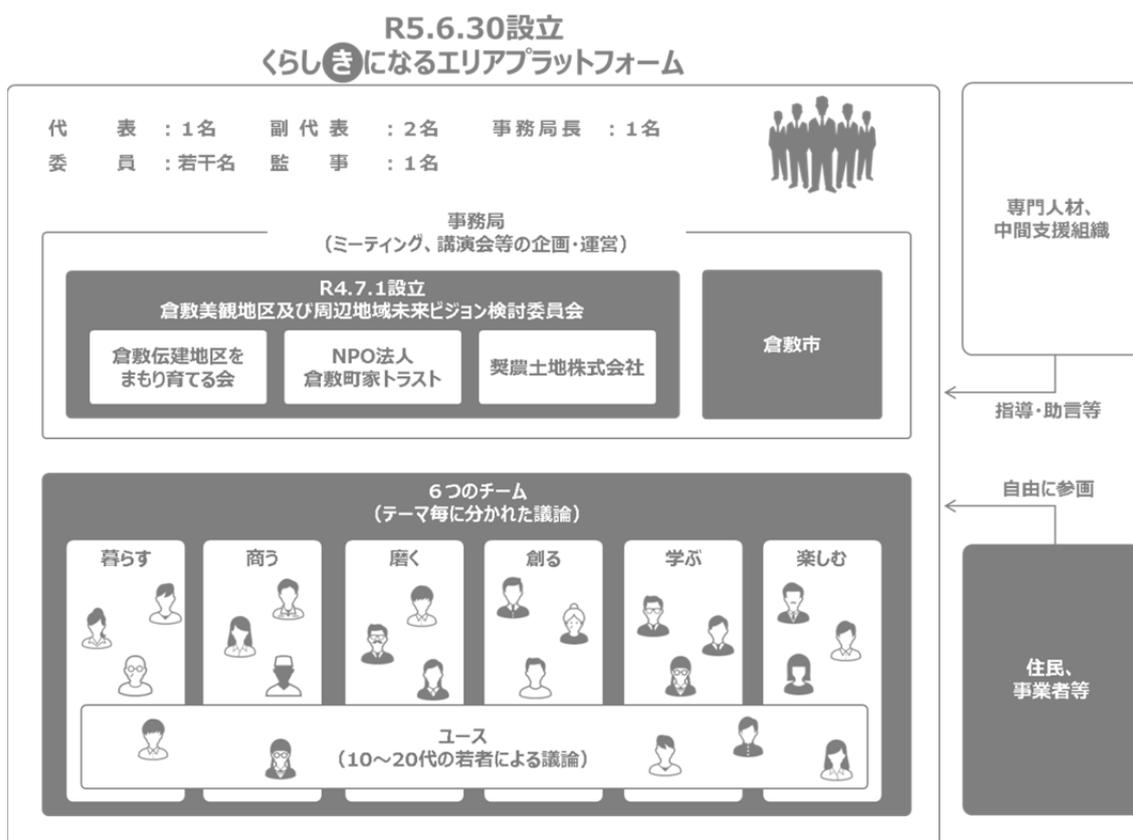
一方、集まる人材の多様性が広がる程、関心のある分野の違いも明らかになることから、全体に関わる議論だけでなく、テーマを分けた議論も行うことにしました。エリアプラットフォーム内に「暮らす」「商う」「磨く」「創る」「学ぶ」「楽しむ」の6チームを設置し、各チームがテーマに沿った議論を進めることで、様々な視点からエリアを検討できる体制を構築しています。

さらに、検討を重ねていくなかで、「未来のまち」を担う「今の若者」の想いを汲み取る

ことの重要性が高まったため、10～20代の若者だけが集まり議論する場も設けています。

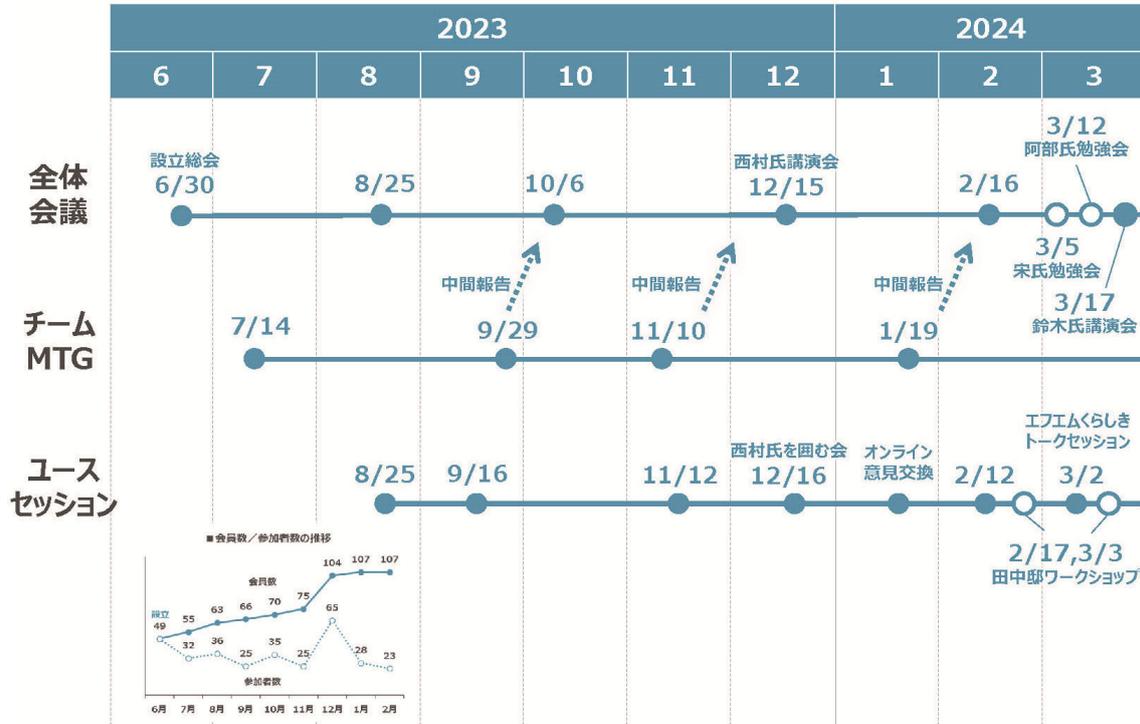
このように、全会員を対象にした「全体会議」、6つのチームに分かれる「チームミーティング」、若者が集う「ユースセッション」という3つの場を用意し、そこで語られた想いやアイデアを取りまとめて、未来ビジョンに落とし込みました。

【エリアプラットフォーム体制図】



令和5年(2023)6月のエリアプラットフォーム設立以降、全体会議を3回、チームミーティングを3回、ユースセッションを4回開催しました。時にはまちづくりの専門家を招き、時にはまち歩きを併催しながら、外の視点や新たな気づきを取り込み、議論を深めていきました。未来ビジョン策定後もこれらのミーティングは継続し、将来像の実現に向けた活動へと繋いでいきます。

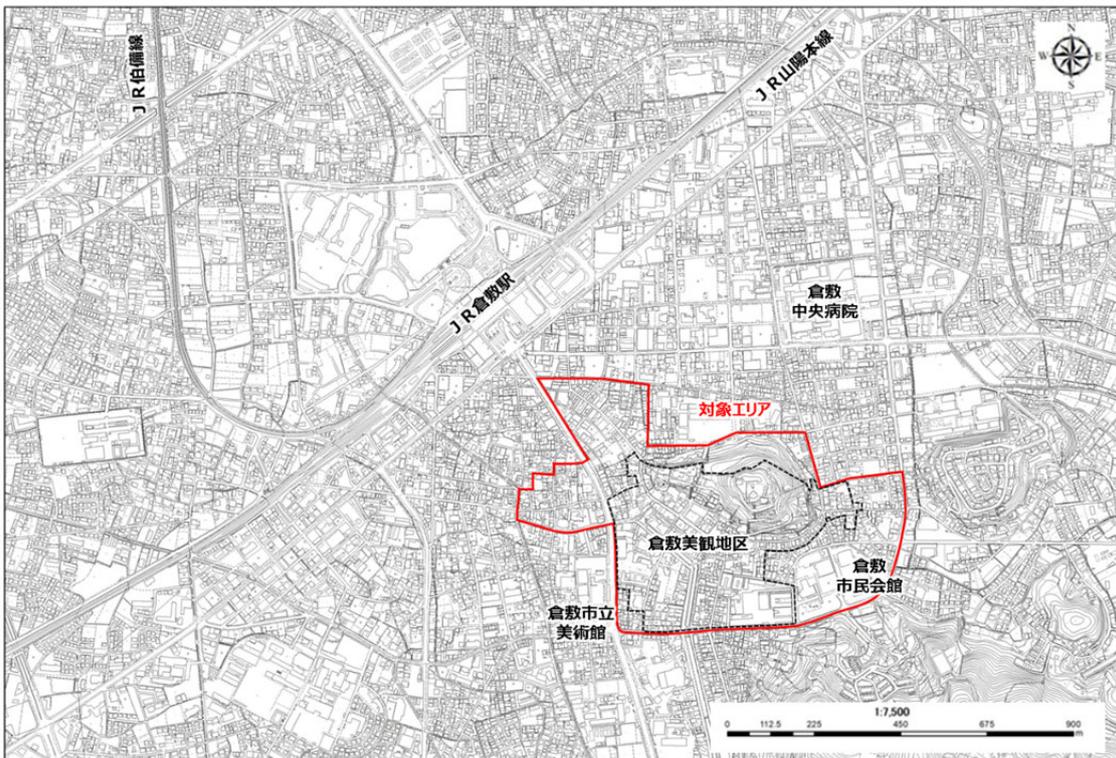
【ミーティング開催履歴】



2. 未来ビジョンの対象エリア

未来ビジョンは、倉敷美観地区を中心に歴史的建造物が残る約41haのエリアを対象とします。歴史的建造物群の保存地区（美観地区）に加えて、倉敷川畔を中心に東西南北に伸びた街道があります。商店街から北に抜け真備の方へ行く道筋。西は阿知3丁目・大橋家住宅も含めた周辺の街道沿い。東は東町から早島、妹尾を通して岡山に行く街道。そして船倉から南の方へ行く街道。この4つの街道沿いに町家が多く残っています。この街道沿いを今回の対象エリアとしています。

【未来ビジョンの対象エリア】



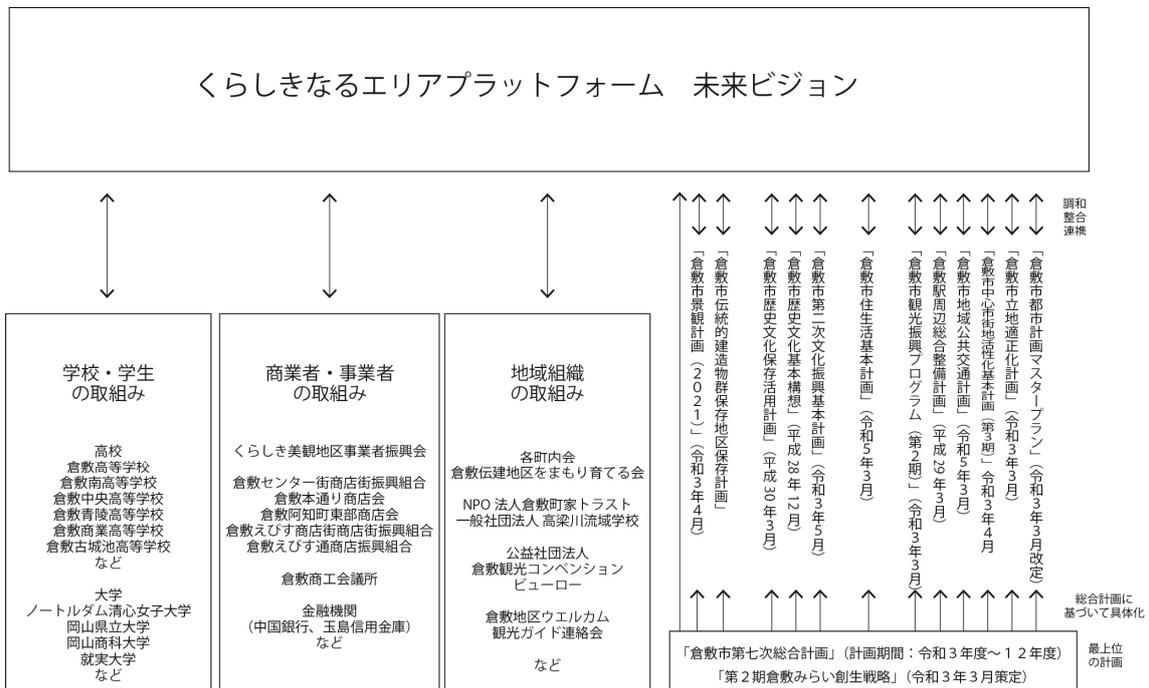
3. 未来ビジョンの位置づけ（他の行政計画や地元の取り組みとの関係）

未来ビジョンは、対象エリアの将来像やその実現に向けた方針を示すもので、エリアに関心のあるすべての人（住民、事業者、地権者、行政等）が同じ方向を目指し、それぞれが当事者として行動するための道しるべとなるものです。様々な行政計画と整合しつつ、多様な関係者が集うエリアプラットフォームでの議論を踏まえた内容になっています。

なお、未来ビジョンは随時更新することを前提に策定しており、エリアプラットフォームの活動や社会情勢の変化等に柔軟に対応していくこととしています。

- ・「公」・「民」・「学」が連携して取り組みを進めていきます。
- ・それぞれでこれまで進められてきた取り組みを、継承し、連携しながら、取り組みを進めていきます。
- ・倉敷市の各分野にわたる現行の行政計画と整合・連携を取りながら取り組みを進めていきます。
- ・住民、地域組織、事業者、学校での取り組みとも連携を取って進めていきます。

【未来ビジョンの位置づけ】



4. 倉敷のこれまでと現在

エリアビジョンを構想する前提として、倉敷のまちのこれまでと現在を振り返ります。各種データの分析を行い、倉敷中心部においてこれまで描かれてきたビジョンと現在の行政計画を概観します。

(1) データ分析

①人口・世帯数

エリア内の人口は、令和5年(2023)7月現在、1,085人となっています。年齢三区分別にみると、年少人口(～14歳)8.2%、生産年齢人口(15～64歳)46.6%、老年人口(65歳～)45.2%となっています。倉敷市全体と比較すると、かなり少子高齢化が進んでいます。

エリア内の世帯数は、令和5年(2023)7月現在、608世帯となっています。一世帯当たりの平均人員は1.78人であり、市内全体の2.17人と比較すると、低くなっています。ファミリー層が少なく、子どものいない、高齢者のみの世帯が多いことがうかがえます。

【人口・年代・世帯数】

	人口 (人)				世帯数 (世帯)			
	～14	15～64	65～	合計	夫婦	単身	その他	合計
本町	12	107	135	254	36	63	38	137
阿知2丁目	37	139	126	302	37	91	43	171
阿知3丁目	8	61	53	122	10	38	21	69
鶴形2丁目	4	25	34	63	13	18	6	37
美和2丁目	2	12	12	26	2	6	6	14
中央1丁目	3	38	36	77	10	33	8	51
東町	30	121	87	238	22	61	40	123
エリア内	96	503	483	1,082	130	310	162	602

倉敷市：住民基本台帳（令和5年12月末現在） より

②事業所数（小売行・飲食サービス業）

エリア内には、小売業として、事業所（店舗）は148、従業者471人であり、売り場面積の合計は7,600㎡となっています。飲食サービス業として、事業所（店舗）は170、従業者は1,259人となっています。

従業者の合計は1,730人で、人口より多くなっています。

小売業について、一事業所（店舗）当たりの従業者数は3.18人、売り場面積は51.3㎡、年間商品販売額は0.33億円となっており、小規模な店舗が多く立地しています。

飲食サービス業について、一事業所（店舗）当たりの従業者数の平均は7.4人、事業収入は、0.32億円となっています。

【小売業】

	小売業			
	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (億円)	売場面積 (㎡)
エリア内	148	471	49	7,600
市内	2,963	23,807	4,953	613,374

【飲食サービス業】

	飲食サービス業		
	事業所数	従業者数 (人)	事業収入 (億円)
エリア内	170	1,259	54
市内	1,491	12,891	550

総務省・経済産業省：平成 28 年経済センサス-活動調査 より

③緑・公園

エリア内には、鶴形山公園、阿知 2 丁目遊園、阿知フラワーポッケの 3 つの公園があります。鶴形山公園は、阿知神社の境内周辺に整備された公園で、春には約 120 本の桜が咲き誇り、また、園内にある樹齢 300～500 年ともいわれる「阿知の藤」は岡山県天然記念物に指定されています。

倉敷市の市内の市街化区域と比較すると、一人当たりの面積は大きくなっています。

【都市公園面積】

		箇所	面積 (ha)	一人当たり面積 (㎡/人)
エリア内(※鶴形山公園、阿知 2 丁目遊園、阿知フラワーポッケ)		3	0.73	6.73
倉敷地域	市街化区域	196	49.10	3.05
	全体	259	117.78	6.02
市内	市街化区域	571	232.34	5.89
	全体	759	390.55	8.07

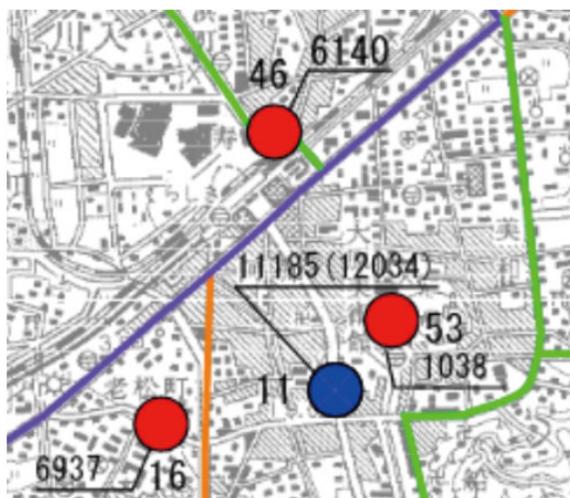
倉敷市：倉敷市緑の基本計画 (H28. 3) より ※H27. 3. 31 現在、エリア内は R5. 7 末現在

④交通量

○自動車

一日の自動車交通量は下図のとおりです。倉敷中央通りは交通量が多くなっていますが、エリア内の交通量はその10%程度となっています。

【交通量データ】



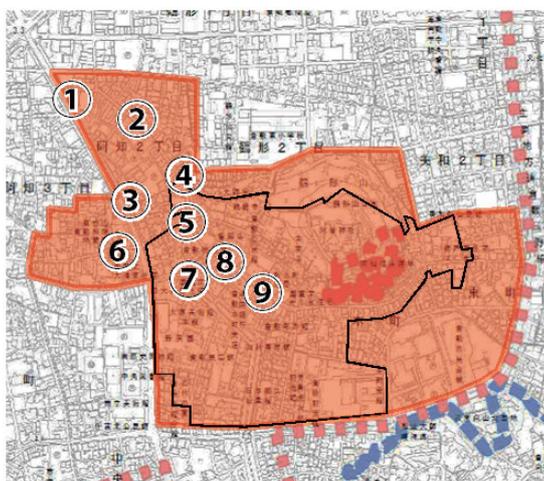
倉敷市：令和3年度倉敷市全域地内倉敷市道路交通量調査報告書（R4.1）より

○歩行者・自転車

歩行者・自転車の通行量は平成30年までは増加傾向にありましたが、新型コロナウイルスの影響による観光客数の減少に伴い減少傾向にあります。平成30年(2018)までは増加傾向で、特に、美観地区内(④～⑧)は、平成24年(2012)と比較して、6年間で約6～9割増加しています。

倉敷駅と美観地区を結ぶ動線として、商店街(②)と倉敷中央通り沿い(①、③)を比較すると、商店街の方が通行量が多くなっています。また、倉敷中央通りの西側(⑥)は通行量が少なく、観光客が訪れることが少ないことがわかります。

【歩行者・自動車の調査位置】



【歩行者・自動車の通行量】

人/日

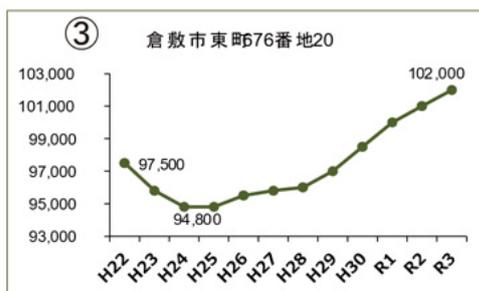
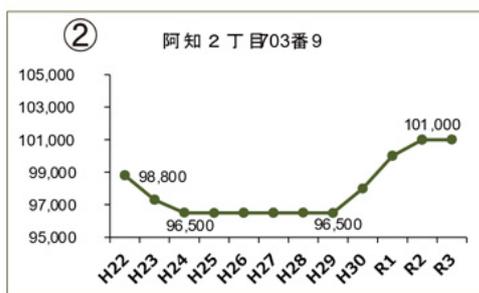
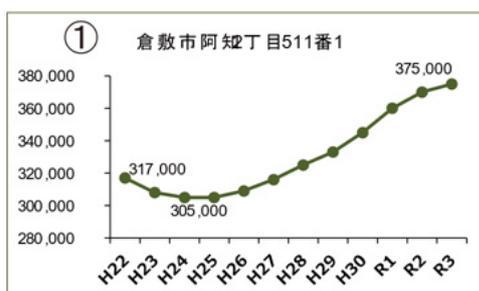
	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
①	-	-	-	-	-	-	4,697	2,643	1,488	1,630	2,125
②	4,106	3,325	4,026	3,643	3,422	4,498	5,798	3,821	2,309	3,015	3,889
③	2,737	3,139	2,828	2,563	3,550	3,674	5,320	2,514	1,602	2,016	2,607
④	4,283	3,355	4,102	3,684	4,441	5,068	7,398	5,051	2,505	3,258	4,920
⑤	2,016	2,012	2,718	2,054	3,219	3,407	3,894	2,341	1,373	1,718	2,737
⑥	-	-	-	480	572	804	682	243	312	115	463
⑦	491	470	567	538	546	692	782	511	320	411	657
⑧	5,391	4,077	5,528	4,502	5,698	6,901	8,827	5,811	2,777	3,681	5,723
⑨	-	4,362	5,443	3,985	6,004	6,960	8,770	6,124	2,849	3,371	5,662

⑤地価

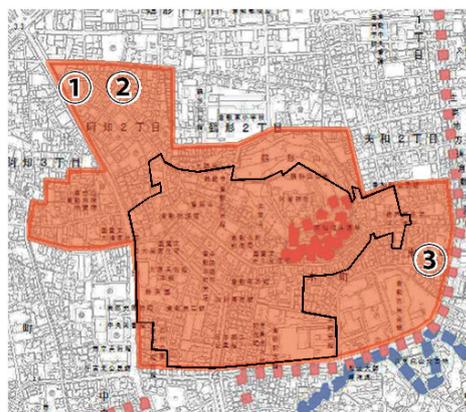
10年間の推移をみると、エリア内の地価は上昇しています。

令和3年(2021)と平成22年(2010)を比較すると、倉敷中央通り沿い、あちてらす倉敷の正面である地点①は約18.3%となっており、地点②は2.2%、地点③は4.6%と比較すると、増加率が大きくなっています。

【地価の変動】



【地価の調査位置】



⑥空家

エリア内には、令和3年度の時点で60件の空き家があり、空家率は5.5%となっています。倉敷地区と比較して、空家の割合が高くなっています。

【空き家率】

	空き家率 (%)
エリア内(※)	5.5
倉敷地区内	3.8
市内	5.7

【空き家数】

	空き家数 (戸)
エリア内	60
倉敷地区内	2,608
市内	8,892

※大字単位（阿知+鶴形+美和+本町+東町+中央）の合計

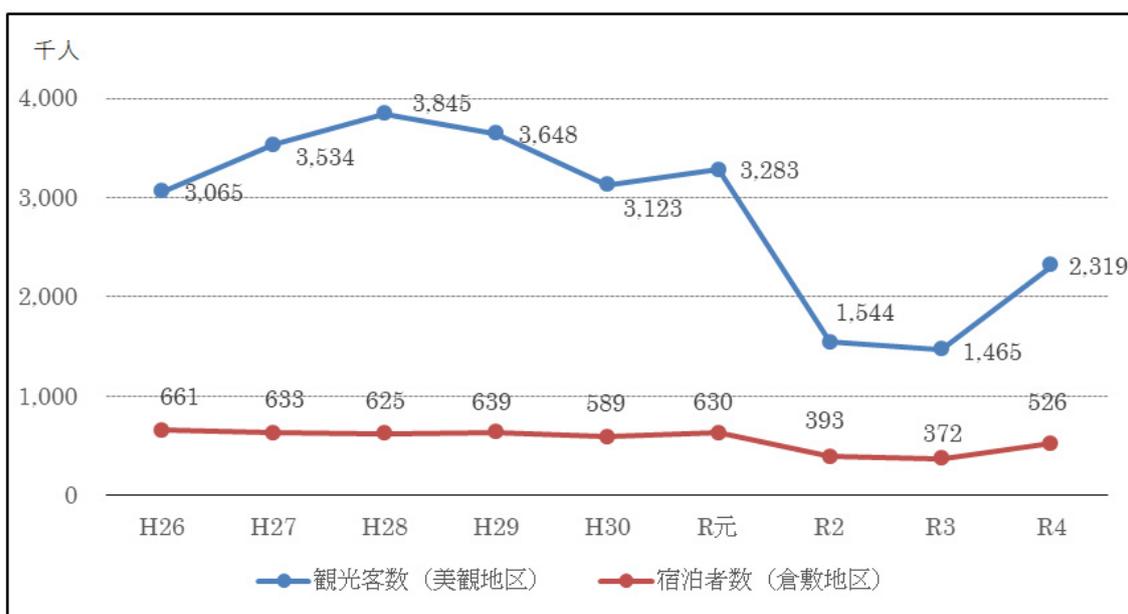
倉敷市：令和3年度倉敷市空家等実態調査 より

⑦観光客数

倉敷美観地区の年間観光客数は、平成28年(2016)には岡山県destinationキャンペーンが行われ、384.5万人でピークとなり、平成30年(2018)7月豪雨等の影響もあり減少もみられますが、年間300万人以上が訪れていました。新型コロナウイルスの影響により令和2年に激減しましたが、令和4年(2022)には、回復傾向にあります。なお、美観地区の観光客数は、倉敷市の観光客数の約7割を占めます。

また、宿泊者数は、新型コロナウイルスの影響で減少していますが、約60万人（倉敷地区）で推移していました。

【観光客数の変動】

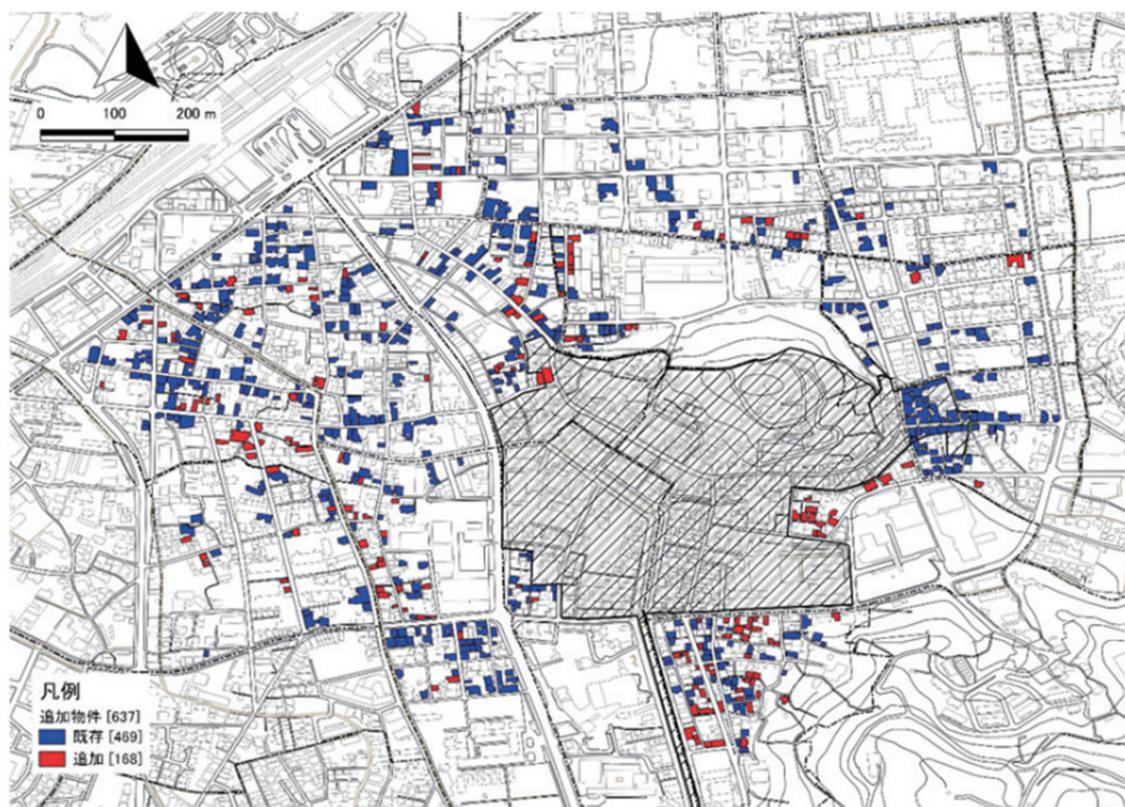


⑧歴史的建造物

歴史的建造物は美観地区外にも多く分布しており、美観地区だけでなく、周辺も含めてエリアの歴史的なエリアとしてのイメージを形成しているといえます。

一方で、調査した 5 年間でも、範囲外の歴史的建造物は、解体されるものも多くみられます。

【美観地区外の歴史的建造物の残存状況】



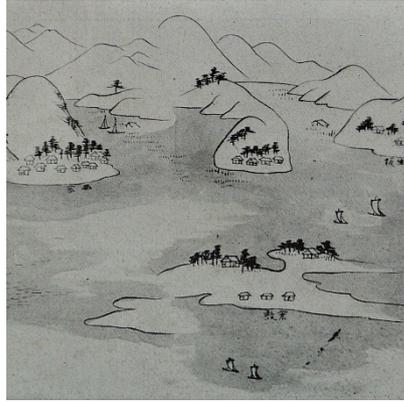
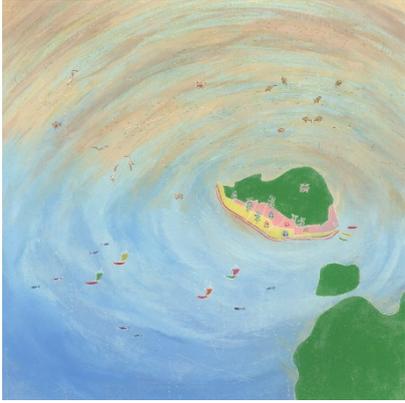
※2018 年時点倉敷町家トラストによる調査

出典：「倉敷市中心市街地における伝統的建築物の残存状況調査報告書」（2020 年発行）

(2) これまで描かれてきた倉敷のビジョン

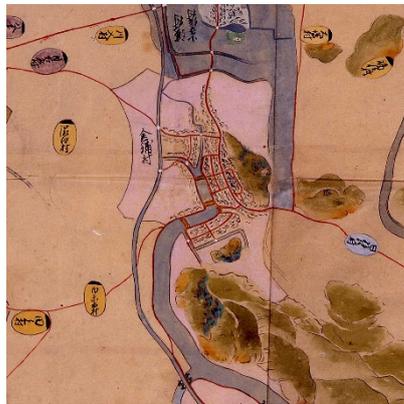
【倉敷美観地区及び周辺地区歴史年表】

1642 (寛永 19 年)	江戸幕府領になる
1876 (明治 9 年)	倉敷村 (窪屋郡)
1888 (明治 21 年)	倉敷紡績所設立
1891 (明治 24 年)	山陽鉄道、倉敷まで開通
1917 (大正 6 年)	倉敷町役場落成 (現倉敷館) 倉敷町制
1925 (大正 14 年)	伯備線開通
1928 (昭和 3 年)	倉敷市制
1930 (昭和 5 年)	大原美術館開館
1948 (昭和 23 年)	倉敷民藝館開館
1949 (昭和 24 年)	倉敷都市美協会結成
1960 (昭和 35 年)	市庁舎落成 (丹下健三)
1967 (昭和 42 年)	三市合併 (倉敷・玉島・児島)
1968 (昭和 43 年)	倉敷市伝統美観保存条例公布 (翌年施行) 倉敷市の将来像に関する懇談会報告
1969 (昭和 44 年)	倉敷文化センター開館 (現倉敷公民館)
1972 (昭和 47 年)	山陽新幹線岡山駅開業
1974 (昭和 49 年)	倉敷アイビースクエア開業
1978 (昭和 53 年)	倉敷市伝統的建造物群保存地区保存条例公布
1979 (昭和 54 年)	倉敷川畔重要伝統的建造物群保存地区選定
1980 (昭和 55 年)	現倉敷市庁舎竣工
1987 (昭和 63 年)	瀬戸大橋開通
1990 (平成 2 年)	倉敷川畔伝統的建造物群保存地区背景保全条例公布施行
1997 (平成 9 年)	倉敷チボリ公園開園 (平成 20 年閉園)
2006 (平成 18 年)	NPO 法人倉敷町家トラスト設立 倉敷伝建地区をまもり育てる会設立
2007 (平成 19 年)	美観地区電線類地中化事業開始
2011 (平成 23 年)	平成 22 年度都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」
2014 (平成 26 年)	美観地区電線類地中化事業完成
2018 (平成 30 年)	伝美保存条例 50 周年



中世後期
1500 年ごろ

瀬戸内海に浮かぶ
小さな島の漁村。



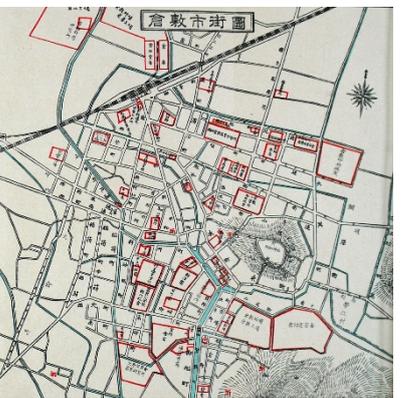
江戸時代
1710 年

浅瀬を干拓、運河
のまちに。物資の
集散地として繁
栄。



明治時代
1910 年

駅の開設、倉敷紡
績設立。都市施設
の近代化が進む。



昭和初期
1928 年

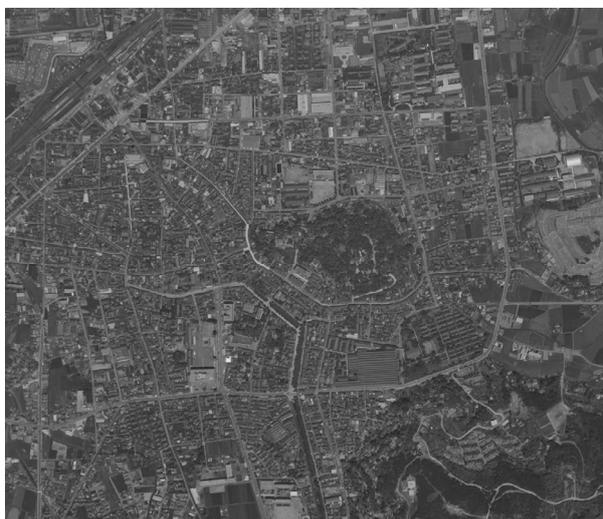
郊外の宅地開発が
進む。美術館や病
院がえられる。

復元イラストマップ 画：梅田美里 監修：成清仁士
古地図所蔵：倉敷市歴史資料整備室 (小野家文書)、国土地理院

【倉敷中心部の航空写真にみる倉敷中心部の変遷（国土地理院のホームページより）】



【1947年10月】



【1967年5月】



【1975年2月】



【1980年10月】

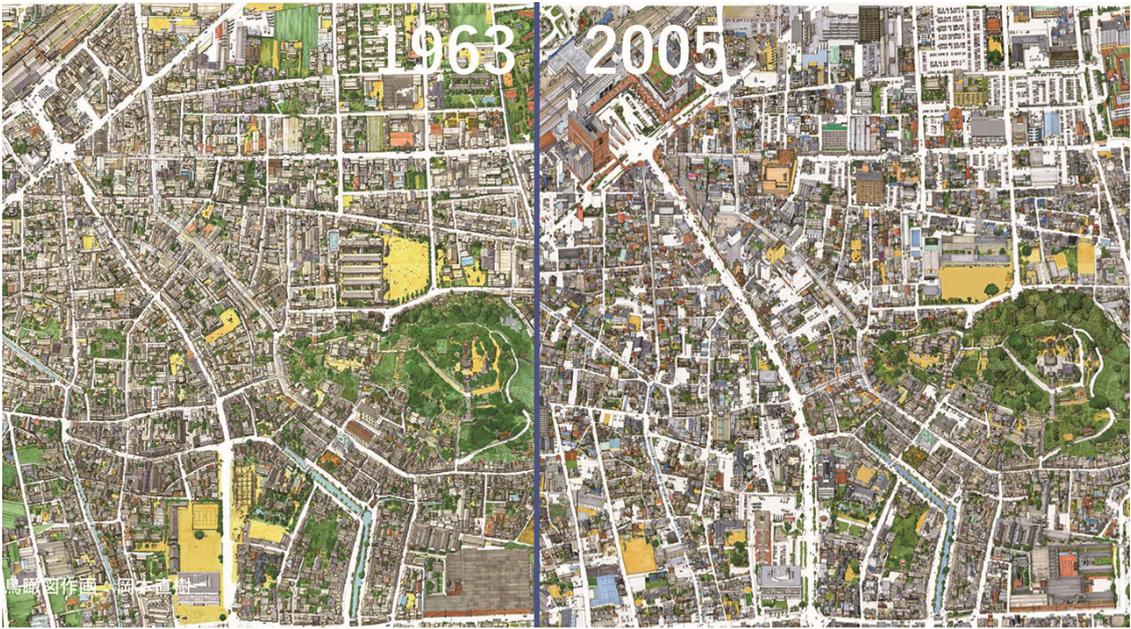


【2002年5月】



【2020年8月】

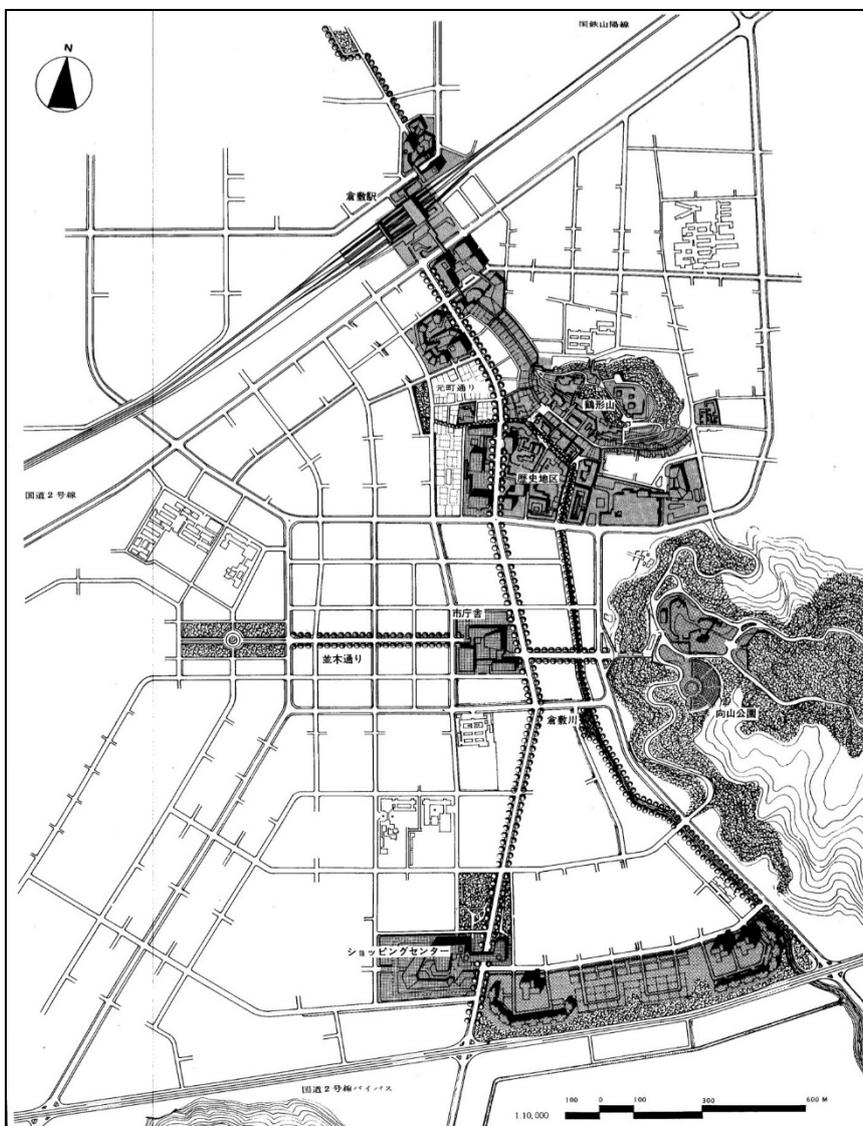
【岡本直樹氏による鳥観図（1963年／2005年）】





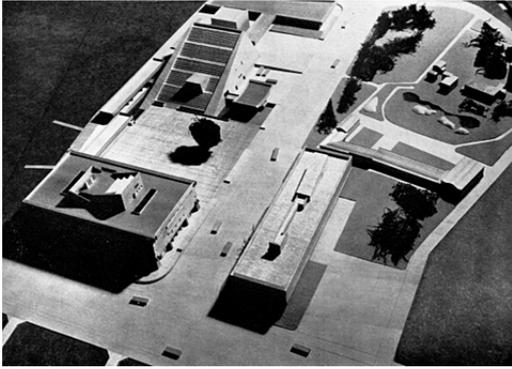
【昭和 24 年(1949)】倉敷民芸館

出典：倉敷市歴史資料整備室所蔵「内田錬太郎氏寄贈フィルム」

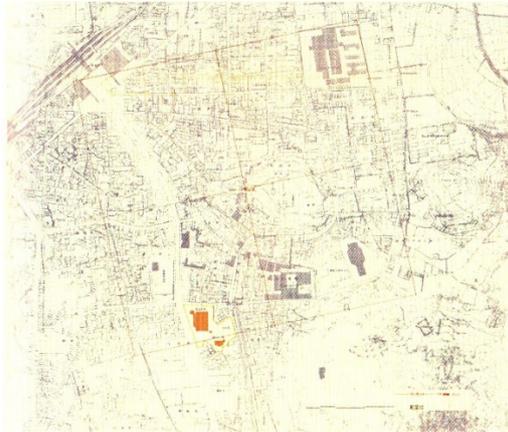


【昭和 42 年(1967)】倉敷市中心部地区設計案

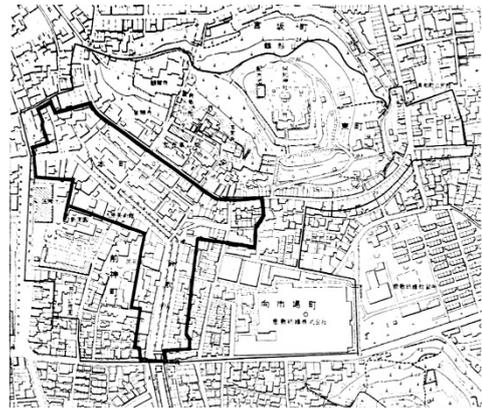
出典：東京大学都市工学科編「倉敷市の将来像に関する懇談会報告」倉敷市の将来像に関する懇談会、1967



【昭和 35 年(1960)】倉敷市庁舎・市民広場・公会堂総合計画 出典：丹下健三研究室「倉敷市庁舎・市民広場・公会堂総合計画」、『建築文化 1960 年 9 月号』彰国社、1960、p.38



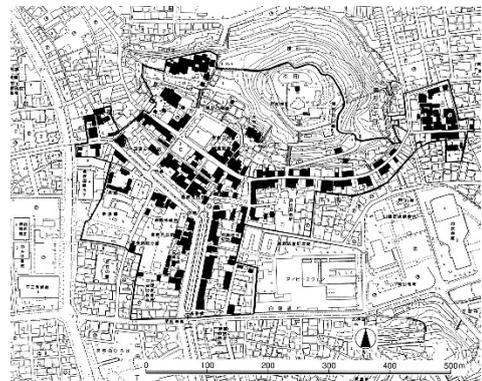
【昭和 44 年(1969)】四方櫓構想
出典：浦辺鎮太郎建築展実行委員会 監修「建築家浦辺鎮太郎の仕事」、学芸出版社、2019



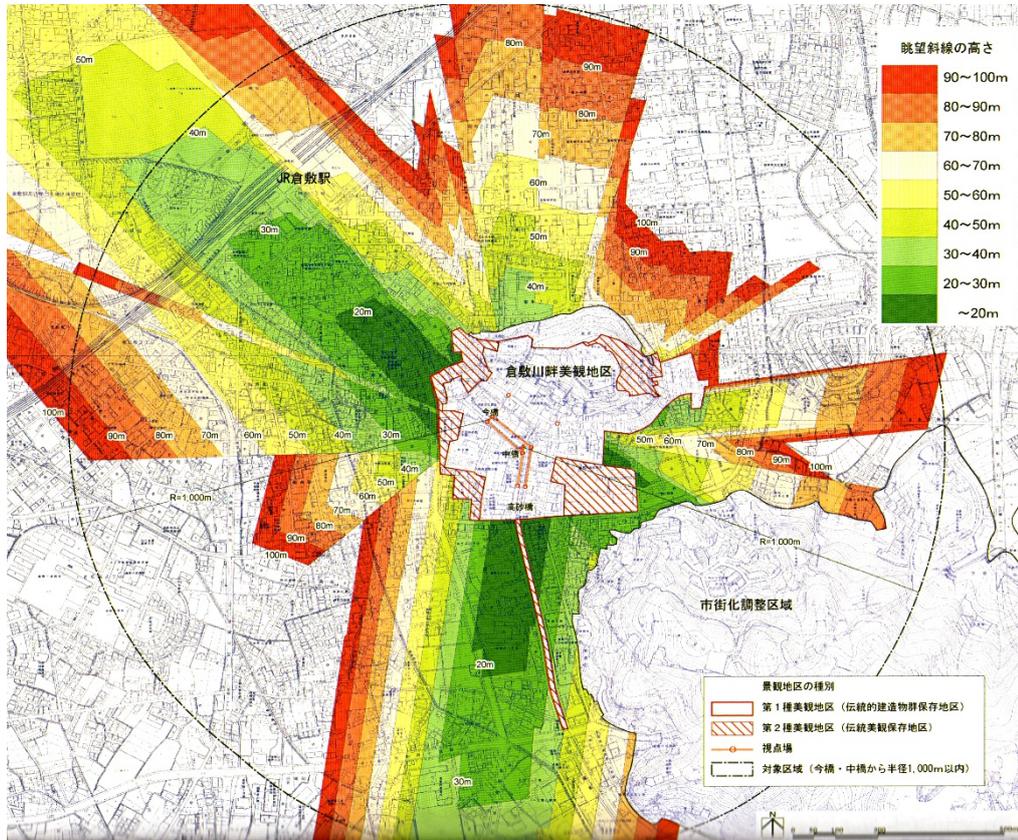
【昭和 43 年(1968)】倉敷市伝統美観保存条例
出典：上田篤・土屋敦夫編「町家・共同研究」鹿島出版会、1975



【昭和 54 年(1979)】重要伝統的建造物群保存地区
出典：文化庁「集落町並みガイドー伝統的建造物群保存地区一」第一法規出版、1990



【平成 10 年(1998)】重要伝統的建造物群保存地区（拡大）
出典：文化庁「歴史的集落・町並み保存一重要伝統的建造物群保存地区ガイドブック」第一法規出版、2000



【平成 21 年(2009)】倉敷市景観計画

5. エリアの将来像

(1) 基本的な理念

エリアの将来像の前提となる次の基本的理念を掲げます。

＜基本的な理念＞

倉敷のまちの歴史的な遺産を活かすことを通して持続可能なまちの未来を拓く

(2) 3つの将来像

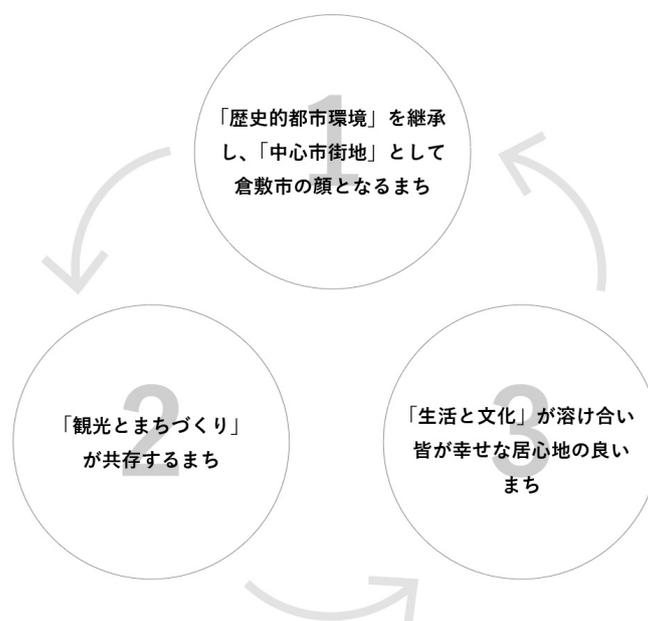
中心市街地活性化基本計画（第3期計画）においては、次のように基本的な方針・目標・課題が整理されています。

【3つの将来像と中心市街地活性化基本計画との対応関係】

中心市街地活性化基本計画				くらしきになる 未来ビジョン
第1期計画(H22)からの継承		第3期計画（R3～R7）		
基本テーマ	基本的な方針	目標	課題	
世界に誇る 伝統文化 居心地よい まちくらしき	歴史と芸術・文化の 香りを楽しむ美しい まちづくり【誇り】	歴史的・伝統的資 源を活用したま ちの魅力向上	歴史的な町 並みの継承	→ビジョン1 「歴史的都市環 境」
	多様な主体による賑 わいと活気のあるま ちづくり【交流】	人が集い、交流す るまちなかの形 成	中心市街の 交流促進	→ビジョン2 「観光とまちづく り」
	都市基盤の整備され た便利で持続可能な まちづくり【持続】	便利で快適な営 みのあるまちな かの形成	便利で快適 な居住環境 の整備	→ビジョン3 「生活と文化」

基本的な理念に基づき、中心市街地活性化基本計画における「方針・目標・課題」に対応した3つの将来像を掲げます。

【3つの将来像と目標】



<ビジョン1>

「歴史的都市環境」を継承し、「中心市街地」として倉敷市の顔となるまち

倉敷の中心部には歴史的な都市が残っています。歴史的都市環境には、有形無形のものがあります。コミュニティのこと、商い、暮らしぶり、まちの姿もキーワードとなります。この歴史的都市環境が、倉敷市の顔となるまちをめざします。

<ビジョン2>

「観光とまちづくり」が共存するまち

観光「と」まちづくりがバランスを取ってどうしたら進めていけるか。観光の中心として伝建地区があるが、伝建地区にも住民がたくさんいる。その周辺にも暮らしのまちがある。観光地でなく、「観光まちづくり」だけではない、「観光とまちづくり」が共存するまちをめざします。

<ビジョン3>

「生活と文化」が溶け合い、暮らしている人たちが幸せを感じる居心地の良いまち

倉敷のまちにはこれまで積み重ねられてきた独自の文化があります。「生活と文化」が溶け合うことによって、「誰一人取り残さない」だけでなく、暮らしている人たちが幸せになる（ウェルビーイング）を感じられるまちをめざします。

【未来ビジョンのイメージ】

<目標1>

「歴史的都市環境」を継承し、「中心市街地」として倉敷市の顔となるまち

<目標2>

「観光とまちづくり」が共存するまち

<目標3>

「生活と文化」が溶け合い、暮らしている人たちが皆が幸せを感じる居心地の良いまち



(3) ユースの思い・未来へのメッセージ

【ユースセッションでの議論をまとめたグラフィックレコーディング】

8月25日
くらしになる 主役は若者!
エリアプラットフォーム ユースセッション
 時間 15:00~17:30 会場:新渡園 対象:学生&25以下の方

持続可能な社会・経済環境とは?
 歴史・風土・文化がある 観光地 住民 専門家 来訪者
 他のもうひとつは少し違う。
 一緒に考えてもらいたい!

経過説明
 エリアプラットフォームのエリア
 3つの将来像!!
 観光とまちづくりの共存
 歴史の継承+中心市街地
 倉敷の顔に
 ~生活+文化~
 ウェルビーイングを感じよう

① まちあるき → ② ミニトーク
 問題点 & 改善点
 フェイスカウション
 倉敷の未来のウェルビーイングに向けて
 主体的・精神的・社会的に満足している状態
 楽しむための工夫を!!
 着物のレンタル・バリエーション
 MAP作成・食体験等
 (QRコード・他言語対応)
 景観の課題
 コンビニ・着替・材料の色
 道路から見る風景
 美観地区からビル群が目に入る

参加者感想 高校生&大学生
 倉敷の歴史・文化について
 貴重な体験
 美観地区について
 話し合いでアイデアが出た
 建設からの将来のことも
 考える機会があった
 高校生が中心の新しい取り組み
 期待している

今後の予定
 ユースセッション 9/16
 全体MTG 10/6
 全体PT 12/15
 ユースセッション 12/16

11月12日
くらしになる エリアプラットフォーム ユースセッション
 対象:学生と若者(18+) 時間:14:30~16:30 会場:大橋宅住

観光
 まちづくりの共存
 3つの将来像
 6つのテーマ
 意識
 話し合い!!
 生活+文化
 倉敷の顔
 歴史の継承+中心市街地

観光
 空家 → 宿に!!
 /おもしろ住宅PR
 空家環境 → 駐車場に作りがら → 公共交通
 今あるもの「倉敷」
 「価値」つけ お土産
 Paypayの音を岡山中
 「文化」大事!!
 何ぞ?
 「美しい」
 何ぞ?
 住み心地がいい
 美しい老人
 町づくりに開かれた人
 何でか 50代の人には
 満足してくれよう

まちづくり
 コンセプト
 1. 1人1人の暮らしを
 活かす
 2. 美しい老人
 3. 町づくりに開かれた人

コミュニティ
 交流
 地域向
 若年世代
 美観地区と学校
 学校と連携
 気軽に参加
 2期 ユースセッション
 3期 PT
 トークセッション

今後の予定
 西村幸夫氏 11月20日 意見交換
 12/15 14:30 講演会&全体MTG(新渡園) 2期 ユースセッション
 16(水) 11:30 西村幸夫氏とのユースセッション(大橋宅住) トークセッション

<ユースセッションに参加している未来を担う若い世代からの、倉敷の未来に対する声>

Aさん：「私にとって倉敷は身近な存在になっています。倉敷を若い世代から盛り上げ、伝えられるように、活動していきたい。」

Bさん：「倉敷は面白い町。だからこそ、より多くの高校生や大学生に興味を持ってもらい、目に見える形で面白さを後継していきたい。」

Cさん：「倉敷の魅力、より多くの若者に伝えたい。そして、次世代を担う若者が住みたくなるまちを。倉敷の未来について一緒に熱く語り合える仲間を増やしていきたい。」

Dさん：「地元を好きになっていく若者を増やしたい。倉敷というまちが居心地が良い場になり、自身が中心となって人や場をつなげる役目として活動していく中で仲間を作りたい。」

6. テーマごとの方針

(1) 6つのテーマにおける問題・方針・取組み

「暮らす」「商う」「学ぶ」「学ぶ」「楽しむ」「磨く」という6つのテーマに分けて、問題、方針、取組みを整理します。

テーマ	問題	方針	取組み
暮らす	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地というイメージが強すぎる ・美観地区は家賃が高い。周辺は不動産情報が少ない。 ・住んでいる人がいるのに暮らしが見えない ・高齢者は一人では住みにくい ・暮らしの文化が見えない（失われている？） ・観光化で居住環境が悪くなっている ・住宅が店舗に変わっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷に住むイメージを若者に伝える ・観光客と住民生活の共存。交流。 ・暮らしが見えるまちにする。 ・20～30代が活躍でき暮らせるまちに ・子供、学生、若者が関わりやすい機会をつくる。 ・多様な階層の人が暮らすまちに。 ・職住一体の家族を増やす ・居住に限らず、生活の一部をエリアが担う「暮らし」の実現 ・中長期滞在者を受け入れ、居住者と来訪者を繋ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家情報のオープン化 ・お試し居住。長期滞在宿泊体験 ・ワーケーション。近くに働く場をつくる。 ・子どもの居場所づくり。小学校との連携 ・倉敷らしいまちや暮らしの姿を伝える ・美観地区周辺に居住エリアをつくる。 ・暮らしの文化を伝える仕組み ・多様な階層の居住者の施設
商う	<ul style="list-style-type: none"> ・地域外でお金が回っている ・店舗の質の確保 ・住民生活と商い・イベントとの間に不調和 ・ゴミ問題 ・ショッピングモールやテーマパークのような雰囲気 ・観光客向けの店舗構成（地域住民が利用する店の減少） ・地元向けの商いが不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域循環型の商い ・倉敷の顔となる、志が高く、物語がある、店主の居る店舗を増やす。 ・観光客と住民と店主の交流を促す。 ・住民と商業者間の相互理解を促す。 ・朝や夜の時間帯を活用する。 ・ゴミのない美しい環境を維持する。 ・地域の産業を生かした商いを増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の居場所づくり ・倉敷型商いの作法のルールづくりと周知 ・くらしき型これからの商いスタイルへの表彰制度創設 ・観光客のゴミすて対策 ・観光税を作り地域貢献に資金を提供する ・新しい商品開発の仕組みと場づくり ・問題認識を共有する機会づくり
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・まちに高校生や大学生の居場所がない ・地元・倉敷のことを学ぶ機会が少ない。外に出た時に倉敷のことを紹介できない。 ・副読本の改定がなされていない。 ・学べる機会が少ない。伝わっていない。 ・集まって学べる場所がない。 ・駐輪場が無く、アクセスしづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生、大学生など若い世代が活動できる機会を増やす。 ・地元・倉敷のこと、暮らしている人の想いを知る機会づくり ・本物、実物に触れられる機会づくり ・地元の人とつながれる機会をつくる ・学びを促進する体制づくり ・学びやすい環境づくり ・年長者が「当たり前」と思っている情報（習慣、食、光景など）を引き出す ・知識を押し付けるのではなく、自分達で気づくヒントをこっそり仕掛ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・シンクタンク（学ぶために集まる組織や拠点）をつくる ・他地区の先進事例を知るスタディツアー ・自主的な取組みを促す場と機会づくり ・まちを学ぶ地域づくり塾の開設 ・ミニシアター ・本や郷土資料、地域情報が集う交流拠点 ・広場のような公共空間の充実 ・段階的な学びに繋がる、連続性のあるまち歩き ・子どもが学んだことを大人に伝える仕組みづくり ・まちを知る宿泊体験

<p>楽しむ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷川の可能性が十分に活かされていない ・活かさきれていない時間帯がある。月曜日、朝、夜。 ・美観地区周辺への回遊性不足 ・倉敷での体験の提供不足 ・楽しむ場所がない（住・食） ・映画、音楽、芸能などサブカルを楽しめる場がない。 ・暮らす楽しさが感じられにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷川をきれいにする ・倉敷川をみんなが楽しめる川にする ・倉敷の朝や夜を楽しめるようにする ・（施設や店舗の休みが多い）月曜でも楽しめる情報発信 ・生活文化を楽しめる機会や場づくり ・観光客に限らず生活者、勤務者も楽しむ ・多様な人が楽しめる環境をつくる ・エリアに関わるハードルは低く。ゲーム要素、食との組み合わせ、遊びなどから 	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷川の清掃活動への参加。無理せずにできることから。 ・朝や夜の町並みの楽しみ方、新たな見せ方の提案。 ・run trip。朝ジョギング+地元食材の提供 ・ちいさな倉敷体験。民芸。畳の空間。 ・子どもエリアガイドの育成 ・町家暮らしが楽しめる住宅 ・「楽しむ」を人から人へ伝える情報発信 ・月光浴
<p>磨く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷の歴史文化や暮らしぶりを把握できていない ・若い人に倉敷の暮らしが伝わっていない ・景観を磨いてきた想いや理念が若者に伝えられていない。議論の場に若者が少ない。 ・建物の老朽化 ・美観地区周辺の町並・町家の消失 ・磨き方のイメージ（将来ビジョン）が共有されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷独自の文化や習慣をきちんと伝える ・伝統行事の再発見 ・美観地区の周辺の景観を良くする ・朝や夜の倉敷の良さを磨き伝える ・民俗文化を活用した収益化 ・地域資源を包括的に把握し管理する ・町家の保存と景観保全のあり方について多様なステークホルダーで議論 ・倉敷の美意識を見える化 	<ul style="list-style-type: none"> ・古民家を処分したい人と活用したい人のマッチング ・地域資源の包括的な調査。生活文化、家庭の伝統行事、民俗、地形的特徴など含む。 ・倉敷の地域資源を若い人や地元の人にもきちんと伝える機会や場をつくる。マネジメント体制の構築。 ・伝統行事に絡めたビジネス展開。 ・町家保全の技術者育成や技術者支援。
<p>創る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活者と観光客の分離 ・車の進入。歩行者と接触の危険。不安。 ・子どもの遊べる場がない ・ゴミ箱が無い ・若い人が住まない ・地元の人が歴史文化やアートに触れる機会が少ない ・くらしきならではのライフスタイルが見えない。 ・観光客のマナー、オーバーツーリズム 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と観光客の共存 ・住み続けられる、次世代へつなぐしくみ。若い人が住めるまちにする。 ・短期間でも住んで働く機会づくり ・子どもの遊べる場づくり ・歴史文化に触れる機会や場づくり ・先端技術を利用したマネジメント体制の構築。専門家との交流、協働。 ・ウォークアブルシティの推進（歩いて楽しく暮らせる、観光できるまち） ・不便さを楽しむ ・伝建地区の内側・外側の役割を認識し、使い分ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民の遊休空間（未利用施設、空き家、空き店舗、空き地、未利用駐車場等）を暫定利用する社会実験 ・若い人がまちに出て行く拠点づくり。「まちづくり部」結成。 ・お試し居住。下宿街をつくる。 ・車の入らないモデルエリア、歩行者優先の道路規制社会実験 ・ライフスタイルLABOの創設（くらしきクラス）

※今後検討して行きたいテーマ：

- ・災害時の対応。外国人も含めて、住民や来訪者が安全に避難できるように。
- ・セレンディピティ（偶然の幸せ）を感じられるまち

7. 将来像の実現へむけた取り組み

(1) 個別の取り組みの集合と、集合知による新たな取り組み

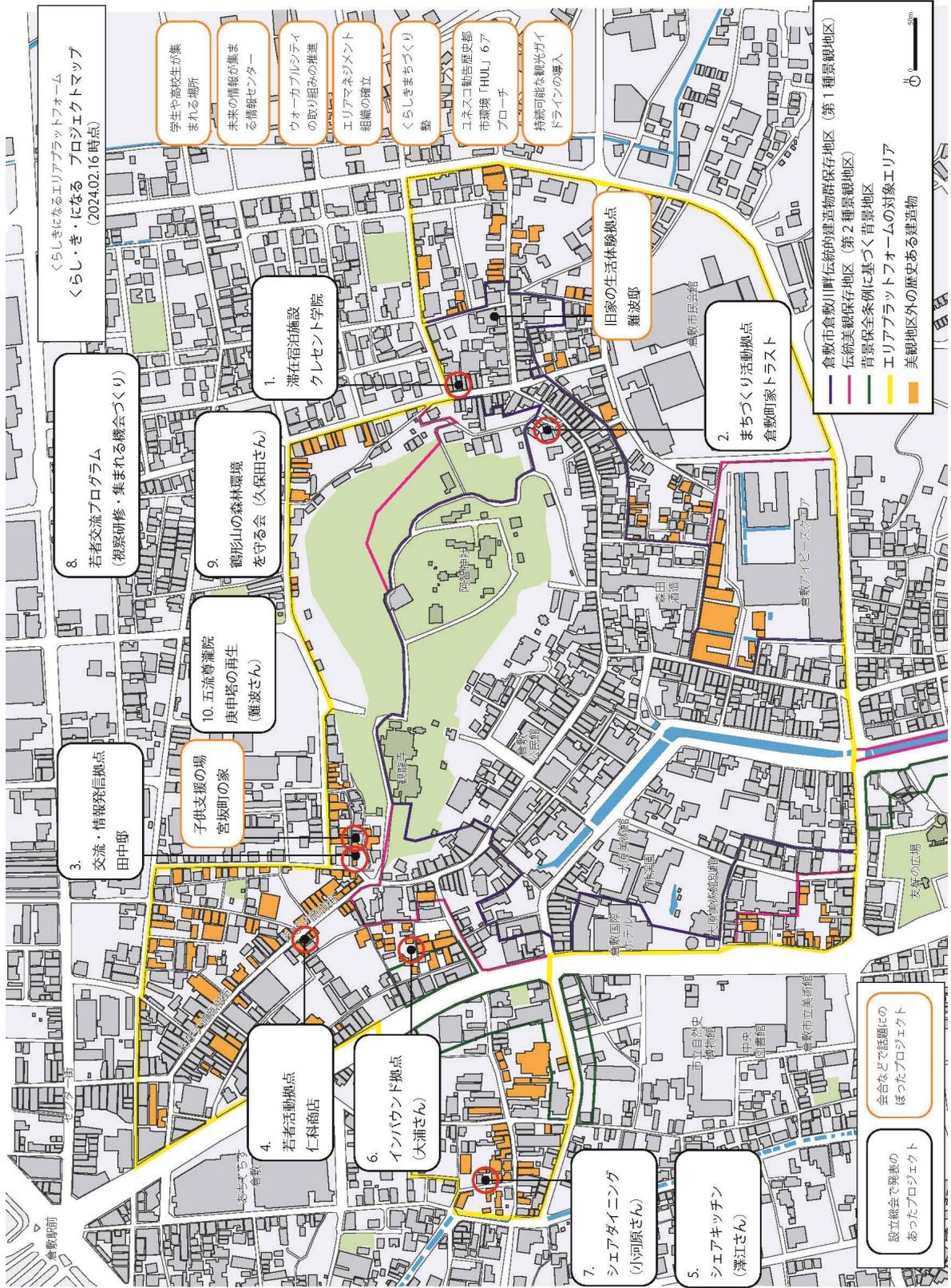
個人や企業・団体による取り組みとして、すでに動き出している、もしくはこれから動き出す見込みのものがエリア内にはあります。さらに、将来像の実現へ向けて、エリアプラットフォームの全体会議やチームミーティングにおいて、参加者で知識や思いを集めた議論を通して、求められる取り組み・活動が見えてきています。この2つの取り組みを重ね合わせて、連携していくことで、将来像を実現していくために取り組んでいきます。

(2) プロジェクトマップ

エリア内で既に実践が進んでいる取り組み、これから必要とされる取り組みが、全体会議・チームミーティング・ユースセッションで議論がされた。それを随時マップに落とし込んでいきます。

・今後も随時更新していくことで、まちの変化の見える化を図っていきます。

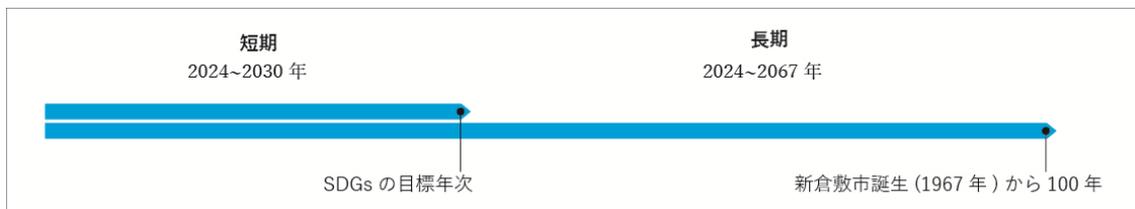
【プロジェクトマップ】



8. 未来ビジョン実現に向けたロードマップ

次の2つの目標年次を設定します。

【ビジョンの目標年次】



(1) 短期：2030年

<期間：令和6年度（2024年度）～令和12年度（2030年度）>

短期の目標年次は、2015年9月「国連持続可能な開発サミット」で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」SDGsの目標年次である2030年とします。国際社会が共に目標に向けて進めている取り組みと連携し、倉敷らしい取り組み（ローカルアジェンダ・地域版SDGs）として進めていきます。

具体的取組内容

（R6年度検討予定）

定量目標

（R6年度検討予定）

(2) 長期：2067年

<期間：令和6年度（2024年度）～令和49年度（2067年度）>

長期の目標年次は、倉敷・児島・玉島の3市が合併して新倉敷市が誕生した昭和42年（1967年）から100年後となる2067年とします。

昭和39年に新産業都市に指定された水島臨海工業地帯を形成する3市がひとつになって、新しい時代に向かって飛躍する幕開けとなりました。

倉敷のまちは近代化による大きな変化の波を受け、50年以上が過ぎ、現在のまちな姿を残しています。これから生まれる世代が社会の中心的役割を担うことになる時にどういったまちな姿を描くのかを設定します。

具体的取組内容

（R6年度検討予定）

定量目標

（R6年度検討予定）

9. 未来ビジョン実現に向けた協働体制

くらし・き・になるエリアプラットフォームは次の参加団体により、設立されました。

【くらし・き・になるエリアプラットフォーム参加団体】

倉敷えびす商店街協同組合、倉敷本通り商店会、倉敷阿知町東部商店会、倉敷商工会議所、まちづくり株式会社、
東学区コミュニティ協議会、倉敷東学区社会福祉協議会、本町町内会、東町町内会、阿知三丁目エリア内町内会、
ノートルダム清心女子大学、岡山県立大学、川崎医療福祉大学、就実大学、岡山商科大学まちづくり同好会、
倉敷青陵高校、倉敷南高校、倉敷古城池高校、倉敷商業高校、倉敷中央高校、倉敷高校三楽、財団法人大原美術館、くらしき美観地区事業者振興会、
一般社団法人子どもソーシャルワークセンターつばさ、ウエルカム観光ガイド、ぽっかぽっか（子供支援）
玉島信用金庫鶴形支店、中国銀行倉敷駅前支店
倉敷東小学校、一般社団法人UDCイニシアチブ
地権者、不動産関連組織、旅館事業者、建築関連事業者、地域住民、市議会議員、・・・個人
NPO 法人倉敷町家トラスト、倉敷伝建地区をまもり育てる会、奨農土地株式会社、倉敷市まちづくり推進課

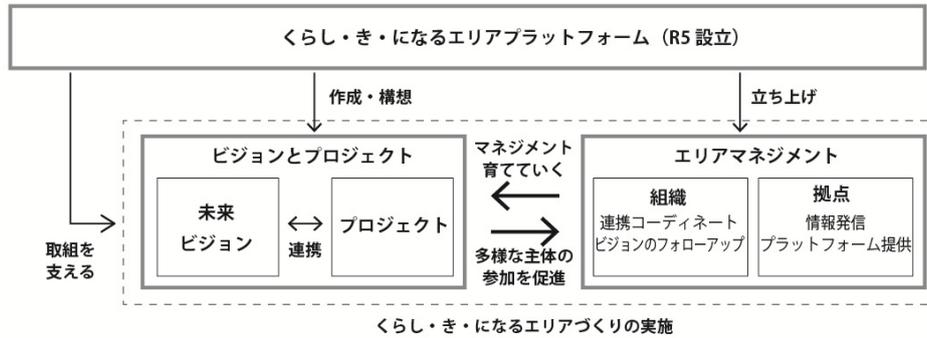
今後、エリアマネジメントを担っていく主体としてエリアプラットフォームをバージョンアップしていくことが求められます。

全体会議、チームミーティング、ユースセッション、事務局、賛助会員、アドバイザー

（1）エリアマネジメント組織への展開

未来ビジョンは、多様な主体の協働により構想されたものであり、その実現に向けて関係機関が協力・連携しながら推進を図っていく必要があります。いくつかのプロジェクトは既に行われ、また具現化しつつものもあります。変わりつつある社会情勢の中で、それぞれのプロジェクトの成果を活かし、育てていくものでもあります。エリアプラットフォームを基盤とし、このビジョンを推進していくため、「公」・「民」・「学」の主体によるエリアマネジメント組織へとブラッシュアップしていくことを検討します。関係する主体の連携をコーディネートする役割を担うとともに、未来ビジョンのフォローアップを行っていきます。

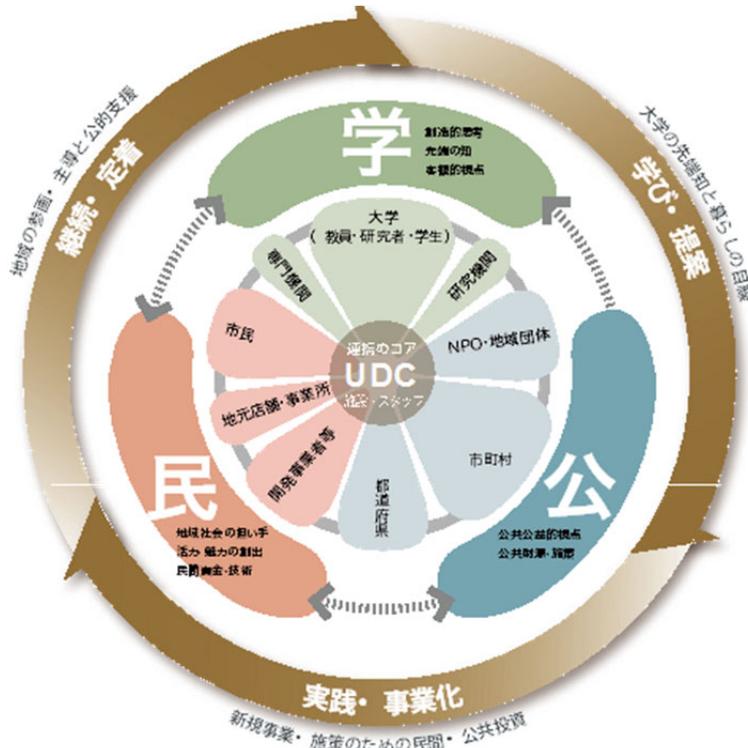
【エリアプラットフォームの展開】



「公」「民」「学」が連携する組織

公共・民間・大学が協働したまちづくりを進める先進事例であるアーバンデザインセンター（UDC）の理念を参考にして組織の立ち上げを検討します。エリアプラットフォームでも先進事例として現地視察や UDC フォーラムへの参加、講演会などを通じて参考にしてきました。地域社会に必要な公的サービスを担う「公共」、市民活動や経済活動を通じて地域の魅力と活力の向上を担う「民間」、専門知識や技術を基に先進的な活動を担う「大学」が日常的・多面的に連携し、まちの未来を描き実践していくエンジンとなります。各組織それぞれが、空間（施設運営費）、人（人件費）、金（活動資金）を負担し、組織運営を行っていきます。

【公・民・学の連携】



①公・民・学連携

ビジョンの推進に関連する構成団体、連携・協力団体による組織化を図ります。まずは任意団体とし、将来的には法人化も検討します。

[構成団体]

組織運営の中心となる団体。

公：倉敷市など

民：倉敷伝建地区をまもり育てる会、NPO 法人倉敷町家トラスト、奨農土地株式会社など

学：ノートルダム清心女子大学（成清研究室）、岡山県立大学（吉田研究室）など

[協力・連携団体]

構成団体のほかに、地域のまちづくりに継続的・多面的に連携・協力する団体や教育機関等を協力・連携団体として位置づけています。必要に応じてこれらの協力団体や連携団体と柔軟に協力・連携し、それぞれの活動をつなぎ合わせながら、個々の事業やプログラムを実施しています。

小学校、中学校など

②拠点

未来ビジョンを地域の関係者に対して発信し、推進するためのエンジンとなる現地拠点をつくります。

[拠点のイメージ]

- ・ビジョンおよび進捗について情報発信
- 将来像の提示、ビジュアル化
- ・プラットフォームとして(誰でも参加できる場の提供)
 - ・専門スタッフが在中、運営をコーディネート



(2) 4つの役割 (案)

エリアマネジメント組織の役割として、下記があげられます。

①ビジョンにもとづくプロジェクト等の支援

- ・ビジョンにもとづく活動の支援
- ・各活動間の連携のコーディネート
- ・ビジョンの見直しおよびブラッシュアップ

②情報発信

- ・未来ビジョン（将来像）の発信
- ・各プロジェクトの最新情報の提供

③まちづくりに関わりたい人や組織をつなげ、まちづくりの輪を広げる

- ・関係主体の連携の深化
- ・プラットフォームとして多様な関係者の巻き込み

④若い世代のまちづくりへの参画の促進

(3) 立ち上げに向けたスケジュール等

(R6 年度検討予定)

10. おわりに

(R6年度作成予定)

くらし・き・になる未来ビジョン <2024 (令和6) 年3月 version>

発行：2024年3月31日

くらし・き・になるエリアプラットフォーム

<https://kurashi-ki-ninaru.jp/>

くらし・き・になるエリアプラットフォームは、対象エリアの未来ビジョンを描き、その実現を目指す官民連携組織です(令和5年(2023年)6月設立)。住む場所や年齢、所属を問わず、ここでは全員エリアのことが“気になる”仲間です。また、まちづくりをよく知る国内外の専門家も活動を後押ししてくれます。

令和4～5年度 国土交通省「官民連携まちなか再生推進事業(エリアプラットフォームの構築・未来ビジョン等の策定)」の補助を受けて制作されました。